



今回のスポットは森シニアクラブ齋藤松太郎さん、桑原千恵さん、小林静子さん

スポット!

楽しい人生に趣味は欠かせない！
家のことに百姓仕事、地区行事いろいろある。そんな日常の中で趣味を持ち、いきいき輝く方にスポット！
その楽しさ・魅力を発信します。



皆さんは栄村の花「カタクリ」をご存知でしょうか。カタクリはユリ科カタクリ属の多年草で春の植物の代表ともいわれています。左の写真のように、開花すると薄紫色の花びらを咲かせる、綺麗な植物です。



そんなカタクリですが、トマトの国付近に群生しているのがわかり、現在森シニアクラブ（会長の齋藤松太郎さんを中心に桑原千恵さんと小林静子さん）で整備して

いると聞きましたので、様子を見てみました。

この取り組みはいつから始めたのでしょうか？

（齋藤）2、3年前からこの取り組みを始めました。とにかくカタクリがいたる場所に咲いていたので、ほっておくのはもったいないと思ったのがきっかけです。森シニアクラブで看板立てなどを計画し、整備を進めています。



このカタクリの群生地を整備していくうえで今後の夢や目標はありますか？

（齋藤）ここ一体をカタクリで埋め尽くして、栄村一の群生地を作りたいと思っています。森集落の住民に限らず、

第358号

令和6年5月1日発行

- 発行
栄村公民館
〒389-2703
長野県下水内郡栄村
大字堺9214-1
- 電話
0269-87-2100
- 編集
栄村公民館報編集委員会

たくさんの方に見て頂きたいと思っています。



御年90歳になる桑原さんと小林さんは年齢を疑うほど元気いっぱい齋藤さんと看板の設置をしていました。設置後は3人でみかんを食べながら一休み。日常の話やこの取り組みについてざっくばらんに話ができました。
栄村の花であるカタクリを守っていくのは素晴らしい取り組みです。4月30日には、森シニアクラブの会員を集めてお花見会をしたとのことでした。また、森シニアクラブでは、カタクリに限らず様々な活動をしているとのことですので、今後も益々お元気に活躍されることを期待します。

能登半島地震における災害派遣へ 行きました

公民館主事 相澤優樹

1月1日に発生した能登半島地震における災害派遣で3月21日に石川県志賀町へ行き、7日間滞在しました。志賀町役場周辺の様子を見ると地震による家屋の倒壊や液状化による地面の浮き上がりなど、震災の爪痕が大きく残っていました。



志賀町の地震被害



志賀町の瓦文化

その中でも、被害が目立っていたのが瓦家屋の崩壊。志賀町内を散策しているとほぼ瓦屋根の家屋しかなく、なぜこんなに瓦屋根の家屋が多いのか不思議でした。

このことについて、地元の方に伺ってみると、海沿いの地域は潮風で家屋が飛ばされないように、瓦を使って家を重くするとのことでした。また、ある高齢の方からは、志賀町の伝統があることを語っていたいただきました。「志賀町だ

けではないと思うけど、昔から志賀町は瓦屋根の先端の棟という部分と装飾瓦で見栄を張っていた。棟部分は瓦が多ければ多いほど見栄が張れ、装飾瓦は形によって変わってくる。」と志賀町の歴史ある瓦屋根の文化を教えてくださいました。栄村とは違う強い競争心があったのだな思いました。元日の地震で多くの瓦家屋が崩壊してしまいましたが、今後復興に向けて、志賀町の姿がどう変わっていくのか、家屋の見え方がどうなるのか非常に興味深いです。

志賀町派遣を通して

志賀町役場では主に家屋の公費解体窓口業務を志賀町役場環境安全課の職員と全国の市町村職員とともに5日間行いました。そのうち2日間は志賀町役場から少し離れた富来支所という避難所でもある所で業務を行いました。この5日間業務を通して大事だと感じたことがあります。それは「会話をすること」です。会話をすることによってお互い自然と笑みが浮かび、気分も上がると業務を通じて感じたので、私は地元の方とたくさん会話をさせていただきました。10分ほど話をしていると、住民

が笑顔で接してくれ、住民の自慢話や面白い話など、様々な話題が生まれ、業務を楽しく進めることができました。特にうれしかったのは地元の方たちからの「ありがとう。」の言葉でした。それはとてもあたたかく、私の心に響きました。

この経験を通じて、栄村でも住民との会話を大事に、今後の業務に活かしていきたいと思えます。志賀町の文化や地域の魅力を知ることができ、すばらしさというものを感じることができました。1日でも早く復興されるようこれからも応援しています。



志賀町 弁天島の景色



第3回 栄村の文化と自然報告会 栄村の歴史文化と自然を再発見！

～知れば知るほど栄村はすごい！～



3月23日(土)、13年前の震災から栄村の文化財整理に関わってくださった地域史料保全有志の会による、「栄村の文化と自然報告会」が公民館と教育委員会共催、栄村後援で開催されました。有志の会は昨年からの活動も再開しています。GWは4月26日(金)から30日(火)の4泊5日で栄村公民館「こらっせ」で活動していただきました。

さて今回の内容ですが、はじめに東北大学災害科学国際研究所の佐藤大介さんから基調講演をいただきました。栄村と東北の震災でのレスキューの経験からわかること、といった内容でしたが、やはり災害前から地道な関係性が有事の際に生きてくる、ということや、文化財は災害のときに後回しにされがちだけれど、それが後に地域の誇りや地域づくりの中核になってくる、その文化財を栄村は住民と地域外の人たち皆で守れていることが世界的にも注目されるべきことで栄村はすごい！という話がありました。ただやはり、ここも後継者の問題には悩まされているそうです。

ほかにも、有志の会の活動の中で東部小に保管されていた資料が概ね長瀬新田から出たとわかったということや、森の広瀬家文書が7年でやっと半分整理できたということ、手漉き和紙の道具や和紙の利用についての情報が是非欲しい！などの発表がありました。また、栄村の希少動植物調査からわかった新発見について、涌井・広瀬両調査員から話があったほか、昨年に引き続き秋山での熊による杉の剥皮被害について忌避剤は今のところ2年は効果が継続しているけれども今後とも継続調査が行われる予定という話があるなど、自然に関する内容も新しい発見が盛り沢山でした。

今回の内容については教育委員会のYouTubeで5月中旬頃まで公開される予定ですので、ぜひご覧くださいね！

おらどこの「宝」の知識を深めよう

おら村の宝!

その12

すごいぜ!!「森宮峽」
中沢謙吾 200万年間の歴史が刻まれた
「タイムトラベルランド」

栄村役場前の絶壁を見て村外から来られた方はだれでも「凄い絶壁ですね」と驚かれます。地元の方は見慣れた景色で不思議がりませんが、実はこの絶壁、本当に凄いですよ。

①千曲川（信濃川）はどのようにして出来たのか？

日本一長い千曲川（信濃川）、実は100万年前は長野あたりから高田・上越方面に流れていました。当時のこの辺は現在の津南町赤沢・米原面、栄村では中央・泉平面が広がりそこに小河川が扇状平野を作って流れていました。ところが数十年前、現在の北信五岳と言われる山々が次々と大噴火し現在の2000m級の山々が誕生しました。その火山活動によって上越方面に流れていた千曲川が堰き止められ大きな湖（琵琶湖大）ができました。満杯になった水は元の流れには戻れず、栄村方面に方向を変え流れ込んで来たのです。流れ込んだ大量の水は栄村から下流域を激しく浸食・削り取り大量の土砂を流して新潟平野を作りました。栄村の深い急流の溪谷はこのようにして出来たのです。



②200万年間の歴史が刻まれた「タイムトラベルランド」

役場前の千曲川（標高235m）から山頂（464m）までの標高差約230mの岩壁には200万年間の歴史が刻まれています。最下部には海の時代の魚沼層、その上に100万〜170万年前の毛無山起源の凝灰岩（白っぽい岩）、その上に80万年前の鳥甲山起源の凝灰岩が露出しています。山頂には戦国時代の山城・大峰城跡（市河氏志久見館の詰城）があります。

又近年、道の駅「またたび」真下の河原に江戸時代後期から大正期に作られた千曲川通船の波止場跡（船着き場）が大小2カ所も見つかりました。千曲川通船とは飯山線も国道117号も無かった時代、物資を大量に運ぶ手段は船でした。この辺は急流域ですので小型の米50俵積みの船でした。昨年、苗場山麓ジオパークで調査したところ、各地で護岸工事が進み、信濃川（千曲川）通船の遺構（運河跡や波止場跡）が残っているのは栄村と津南町だけで信濃川水系では大変貴重な歴史遺産という事が分かりました。またこの通船は大正期中津川水力発電開発や飯山線の建設資材運搬にも大活躍した記録が残っています。



レンズを通してみる栄 第2回

市川 憲一
(月岡)



今回はスマートフォンで撮影した写真を紹介する。

十月下旬のある日の夕方、百合居温泉に歩いて行く途中、道端でサワガニを見つけた。

シャッターチャンスはいつ訪れるかわからないので、いつもカメラを持ち歩くようにしているのだが、この時はカメラなし。でも、

胸のポケットにスマホが入っていた。

そのスマホを地面すれすれまで下げ、サワガニに思い切り近寄ってみた。サワガニは驚いたように、脚を踏ん張り、ハサミを上に向けて「通せんぼ」のポーズ。何枚か撮らせてもらった。モデル料はないけど許してね。

ちなみに、写真を撮る時のコツは、目線を合わせる。小さな子供や背の低い花なども、カメラを下げて、被写体とカメラを同じ高さにする素敵な写真になる。

以前の携帯電話（俗にいうガラケイ）のカメラに比べて、スマホのカメラは画質が良い。

面白い写真が撮れたと思いつつ、そのうちの一枚を苗場山麓ジオパークのフォトコンテストに応募したのだが、見事落選した。

しかしながら、村の中の道でサワガニに会えるなんて、栄村はいいところだなあ、とつくづく思う。自然が豊かだということを実感した。

皆さんもスマホにしたら、写真撮る機会が増えたのではないだろうか。

栄村の素敵なところや面白いところをスマホで写真に撮って、大いに楽しみましょう。

あーそんなことがあったんか
 ど先生の栄村昔語り、其の六十二

『元文五年の村定法(続き)』



地域史料保全有志の会
 鈴木 努 (通称：ど先生)
 イラスト作成：佐藤洋平

もう雪も消えて久しく、すっかり暖かくなりました。しかし年明け以来、地震の報道を聞かないことがない、そんな毎日が続いています。台湾の地震のように危険な状況が目前で起きる様子を見ると、まず生命が助かるだけでも大変なことだと実感します。あらためて無事な一年であることを願います。

地震の話題で一回分をおきました。今回は改めて村定法第五条の後半と「附り」の部分を読み進めます。なお元文地震で破損した川除場所の御普請に関する史料があります

ので、いづれご紹介したいと考えています。

村定法の史料本文を再呈します。

一、五節旬其外休日ニも昼夜共若

キ男女相集メ小宿致申者候

ハ、小宿より三貫文ツ、過

料急度取立可申候

附り、苧績と申寄合申義一切

仕間敷候、二番縮之節間合不

申手支有之者之方ニ而介うみ

二頼申義ハ各別之事

「小宿」には奉公人宿や男女が逢

瀬に使う宿、出合い宿の意味もあり

ますが、若者組が共同で寝泊まりす

る若者宿も「小宿」と呼ばれます。

宿親・宿子の関係を結んで宿親の家

に宿泊する例が多く、昼間は家業農

業に勤め夜は小宿に集まるとい暮

らし方をします。それが休日にも夜

昼かまわず男女で小宿に集まるよう

になると、問題視する向きが出てき

たのでしよう。

「附り」は、苧績と言つて寄合を

してはならない、というものです。

栄村内で青苧が作られていたこと

は『栄村誌』にも載っています。皮

むきして引いた青苧の繊維を一本ずつ裂いて継ぎ、糸に仕立てていく作業が苧績みです。『栄村の民俗 第一集 冬と生活』(一九七二年)では積雪期に女性が担う生業でした。ジロの周りで灯りを点し夜なべ仕事でするもので、苧績みは一反分の糸を績むのに三ヶ月くらい、と手間の掛かる作業です。

いっぽうで、「苧績」には、娘組・娘宿のような若い女性たちにとつての「小宿」のような意味があります。苧績みや糸挽きなどの夜なべ仕事をすする寄合を「苧績」などと呼び、特定の家や納屋などに寄合い共同作業をするものです。地域によつては「娘宿」「娘組」があり、宿親宿子の関係も出来て小宿と同じように運営されました。

「小宿」と「苧績」の規制を見ると、男女で差がある様子が見えます。栄村域に小宿や娘宿のようなものがあったか確認できていませんが、男の若者には小宿の使い方への規制、女衆には寄合自体を規制しています。ただし多忙な時に「介うみ」を頼まれたらケースバイケース、と留保されてもいます。

ところで、改めて調べてみますと、この村定法とほぼ同文で年代が僅かに違う元文三年付けの村定法が飯山市にあることがわかりました。それ

は若者の行動への規制といわれ、この他にも若者の夜遊びを規制した村定などがあるとのこと。栄村の事例も若い衆への規制と考えると、前段の豆腐商売や酒の請け売り規制も若い衆に向けたものの可能性がります。いっぽう、他地域に同文の史料があるとなると、この村定法は村の実態と離れたお仕着せの「定型文」のようにも見えます。ただ、近世初期に江戸では豆腐田楽をつまみ出す居酒屋が流行ったという話があり、また居酒屋は農間渡世の一つでしたから、豆腐を売りながら酒も出す居酒屋のような商売を考える人が出てきたり、小宿のようなものが出来たりすれば、村定法は実効性を発揮することになります。元文の村定法は算作村の現実にそれなりの影響を及ぼしたものとみるべきでしょう。



苧績みに使われた苧桶 (白水智氏撮影)

栄村公民館 図書室だより

2024.5

村中の田んぼにかわいい苗がみんなの期待に応えるべくぴよこんと並ぶ光景ももうすぐですね。うららかな春の雰囲気わくわくする、いい季節になりました。息抜きに図書室にも来てくださいね☆

新着図書を紹介

あなたの燃える左手で (朝比奈秋) / 午後のチャイムが鳴るまでは (阿津川辰海)
 幽霊健診日 (赤川次郎) / 今日の別れに (赤川次郎) / ルームメイトと謎解きを (楠谷 佑)
 明け方の若者たち (カツセマサヒコ) / ファラオの密室 (白川尚史) / 地雷グリコ (青崎有吾)
 好きです、死んでください (中村あき) / 52ヘルツのクジラたち (町田そのこ)
 人間標本 (湊 かなえ) / 夫よ、死んでくれないか (丸山正樹)
 下剋上球児 三重県立白山高校、甲子園までのミラクル (菊地高弘)
 trois Mの羊毛フェルト基礎BOOK (trois M)



★栄村図書室開放時間★

平日 午前8時半～午後5時
 土・日 午前9時～正午
 ※祝日は休館します

★休館日のお知らせ★

5月3日(金)～6日(月)



豆腐作りとあられ作り講座を行いました!



去る3月吉日、栄村公民館「こらっせ」で数年ぶりの豆腐作り教室が民生課と共同で開催されました。月岡の樋口松子さんを講師に4班に分かれ、美味しそうな個性豊かな豆腐が出来上がりました。豆腐が固まるまでの間、昨年開催された味噌作り教室の味噌と村内の各加工所での味噌3品、計4品の味くらべや、笹原の関澤キミさんのレシピによるあられも作り試食しました。

参加者からは、『とてもおもしろかった』『一人ではなかなか向かえないが大勢でやると気負わず挑戦できる』『こういう活動を通して村民の人たちと仲良くなるので続けてほしい』『教室、増やしてください』など多数のご感想をいただきました。身近な食物が何で、どうやって作られているのを知って作ってみることは、生きていく力のひとつになるのでは…と思います。今後も村民の皆さんとおもしろく、実のある公民館講座を開催していきたいです。こんな講座をやってほしいという希望があればお知らせください。

児玉 駿介さん (天地)

昨年10月、秋田県秋田市から移住してまいりました。現在は天地地区のシェアハウスに住んでいます(4月19日現在)。これまで秋田市含む各地で遺跡の発掘・展示を中心に、文化財に関する仕事をしてきました。現在も、大変ありがたいことに、歴史文化館こらっせで働かせていただいております。



そんな私が今夢中になっているのが「平安時代以降の栄村の歴史を土器などの考古資料から考える」ということです。具体的には、村内の遺跡めぐりや土器拾い等を楽しんでいます。つい先日も平安時代のものと思われる土師器(はじき)のかげらを拾うことができました。それと併せて村誌等を読んだり、そして何より村の大先輩の方々からいろいろなことを教えてもらったりするのが楽しくて仕方ないです。また、いずれはそうやって学んだことを何らかの形で村の役に立てられればと思っています。

栄村の歴史はとても奥深く、一方私は若輩者ですが、今後ともいろいろなことをご教示いただければ幸いです。

よろしくお願いたします。



おおきくな〜れ



ご飯屋さんになりたい!!

ゆずき
柚希さん (5歳)

弟の事が大好きでいつも遊んでくれる、優しいお姉ちゃん。誰にでも優しくできる子に育ってほしいです。

母の実家の北野から畑のある原向まで自転車で登って行けるたくましい子です。じいちゃんばあちゃんのお手伝いしたり、イタズラしたり、虫を捕まえたり、山菜を取りに行ったり、村ならではの遊びを沢山しようね!

齋藤義一・真琴さん宅 (森)

ようこそ! 栄村へ!!



ひとし
杉浦 一史さん (右)

みき
未来さん (左)

じん
仁さん (右)

さえ
咲衣さん (左)

①栄村に来たきっかけは?

千葉市で生まれ育ちましたが、小学生だった80年代初頭から、農協職員の父と看護師だった母に連れられ、栄村に来ていました。現在、今泉地区で暮らす70代半ばとなる母の体力面のこともあり、また妻と子二人とも栄村が大好きなので、家族四人で移住しました。

②栄村暮らしで感じることは?

まだ暮らし始めたばかりですが、四季折々昔ながらの、自然の恵みを感じる暮らしを实践できるところが、素晴らしいです。子どもたちの育ちにとって、とても貴重で価値のあることだと感じています。

③これから栄村暮らしでは

今は子育て中なので、子どもの育ちが生活の関心の大きな部分を占めています。子どもたちは、何を見て、何を感じて、そして何に憧れていくのかな、と思いを馳せています。私たちが栄村暮らしの豊かさ、幸せをしっかりと感じ、それを子どもに伝えていきたいと思っています。

④メッセージがあればどうぞ

農業のこと、山林のこと、生き物のこと、川や沢のことなど、自然に親しみ暮らすことが大好きです。みなさま、どうぞご教示ください!

じらっせ通信

● 公民館長 樋口正幸氏退任

3月末をもって公民館長の樋口正幸氏（小滝）が退任されました。樋口館長は2年間公民館活動に尽力してくださりました。今後ますますのご活躍を期待します。ありがとうございます。

● 新公民館長 上倉久佳氏就任

4月1日から上倉久佳氏（箕作）が公民館長として就任しました。



● 新館報編集委員会を紹介します！

4月1日から新たに宮川直樹氏（野田沢）が公民館報編集委員に就任しました。公民館報編集委員は公民館長、公民館主事2名、編集委員4名、集落支援員1名の総勢8名で活動しています。皆さんの日常の情報や公民館主催イベントなど楽しい情報が盛りだくさんな館報を作れるよう精一杯頑張ります。



令和5年度の 来館者数

延べ1,522名

開館以来の来館者数は
13,687名です。

昨年度も大勢の方に
来館いただくことができました。

今年度も様々な講座や
企画を設けていきたいと
思いますので多くの方に
ご来館していただきたい
と思います。

令和6年度もよろしく
お願いします。



早そばやってみよう講座開催！

4月15日(月)に森宮野原駅にて早そばやってみよう講座を開催しました。



早そばは県の無形民俗文化財に指定されていて、名前のとおり早く作れるとてもおいしい料理です。この日は、島田とも子さんを講師に7名の方にご参加いただきました。今後も早そばやそば打ちなど、栄村の伝統文化の講座を設けていきたいと思しますので、ご参加よろしくをお願いします。

今月の一句 ～栄村俳句会～

山菜取る夢に亡夫出て声上げて
冬留守の家よ無事に居てくれよ

山田セキ

芽起しの雨に夜明けの緑濃し
人住まぬ垣根に添いてすみれ草

関谷貞子

ブナ若葉子の笑顔こそ尊けり
雑木林初音一声風を呼ぶ

柳 静江

雪しろで濁流激し千曲川
信濃町一茶が生まれて羨まし

杉浦 仁

轉の種類が多き山の道
山羊に乗り残雪の原駆け回り

杉浦恵子

編集後記

今年の2月は暖冬で3月上旬には雪が無くなるかと思っておりましたが、3月の方が2月より降雪量が多いという変わった年で雪解けは平年並みになりました。しかし4月になり一気に暖かくなり、桜も一斉に咲き誇り、栄村も農作業が忙しい季節になって来ました。

私も3月まで館報編集委員でしたが、4月から公民館長になりました。栄村の皆さんが心豊かに、地域に誇りと自信をもって生活できるような活動をしていきたいと思います。何か情報や要望がありましたら、お気軽に公民館までお知らせください。

俳句の会への参加や俳句の投稿募集しています！
ご興味がある方は栄村公民館（☎87-3118）までお電話ください。